II-C-1

糖質の腸管吸収機構に対する 十全大補湯の作用

日本大学 医学部 第二生理学教室

○今井重之、園分眞一郎

【目的】十全大補湯が糖のラット腸管吸収に影響するかどうか検討する。

【方法】Wistar系♂ラット（8週令、48時間絶食後）の摘出した小腸の反転嚢（everted sac）を用いた。十全大補湯は5、10、20mM glucose（Tyrode液で調整）に溶解し、0.45μmミリポアフィルターで濾過後、0.1mg/5ml、1.0mg/5ml溶液とした。糖の輸送阻害剤として、 2×10^{-4} M phloridzin（10mM glucoseに溶解）、 10^{-4} M ouabainをもちいた。粘膜側に十全大補湯液5.0ml、漿膜側にTyrode液約1mlを入れ、O₂通気下、37℃で1時間 incubate後、両側液のglucose濃度をGOD法で測定した。

【結果】5 mM glucoseのtransportは十全大補湯0.1、1.0mgでconcentration dependentに促進された。10、20mM glucoseのtransportに対しても十全大補湯1.0mgは促進効果をしめした。10mM glucoseのglucose transportに対するphloridzin（粘膜側）、ouabain（漿膜側）の作用に十全大補湯1.0mgは影響しなかった。

【考察、結論】十全大補湯にラット小腸のglucose吸収を促進する作用があることが認められた。今回の成績では作用機序は不明であるが、糖輸送蛋白、Na⁺-K⁺ポンプ機構には作用しないと考えられる。